

JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

東日本大震災 MSW災害支援ニュース



群馬県榛名湖イルミネーションフェスティバル

目次

1. 新着情報①②
2. 募集情報
3. 現地支援活動内容
4. 現地支援活動報告①②
5. 仮設住宅における医療福祉相談会の報告
6. 現地・事務所ボランティアの感想文

新着情報 ①

ホームページを改訂中！！

事務所では、災害支援活動の情報発信基地となれるよう、試行錯誤ですが様々な工夫を始めています。ホームページの改訂もその1つです。

お気づきの方もいらっしゃるかと思いますが、「ボランティア募集について」のページでは、これから活動に応募しようという時や、実際に参加する時に役立つ情報を掲載しています。また「お知らせ」のページでは、現地の人員が手薄な期間の募集情報を載せ始めました。その他、新しく災害支援ニュースや活動カレンダーを掲載すると、「**NEW!**」と表示されるようにしています。

慣れない作業なので少しずつですが、もっと見やすく、もっとタイムリーに、を目指して、これからも改善していきたいと思いますので、皆さんどうぞチェックなさってください！

新着情報 ②

災害派遣等従事車両証明の適用が延長！！

高速道路を使って現地の活動に参加する際、高速道路料金が無料となる「災害派遣等従事車両証明」の適用が12月10日まででしたが、この度、2012年3月10日まで延長されました。

12月1日から別途、東北道等の一部無料化が始まりましたので、こちらが適用されない有料区間が「災害派遣等従事車両証明」の適用となりますが、皆さんに申告して頂く高速道路区間は、これまで同様、ご自宅最寄りのICから、活動拠点最寄りの石巻河南ICとなります。

手続きもこれまで通り事務所から宮城県庁に行いますので、皆さん、これからも安心してお車でご参加下さい。

※事務所では、ご出発の1週間前に申請手続きを行っています。

12月29日～1月3日は、県庁、事務所が休みのため、手続きができません。

12月29日～1月10日頃に参加される方は、お早めにお申し込み下さい。

募集情報

現地の活動人数を平日・土日とも4名で募集！！

これまで現地の活動人数を、平日3名、土日4名で募集しておりましたが、
現地での活動拡大に伴い、平日・土日とも4名（宿舎の関係で最大5名）で募集いたします。
平日はもちろん、相談会担当として週末だけの参加も歓迎いたしますが、中3日（金・土・日、
土・日・月など）参加していただくと助かります。

「活動には自信がないけど、車の運転はできる！」という方、ドライバーとしてのご協力も大
歓迎です。皆様からのご応募をお待ちしております！

事務所でも引き続き協力員を募集！！

現地と併行して、これまで事務所の活動もたくさんの協力員の方々に支えられてきました。
しかし最近人数が減ってきていて、事務所一同少しさみしく感じている今日この頃です。

「本当は現地に行ければいいんだけど、職場や家庭の都合でなかなか・・・」という方

「現地に行くのは自信がないけど、何かできないかな・・・」という方

事務所では引き続き協力員を募集しています！

現地の活動や、これから活動に参加する方・したい方の後方支援を一緒にしませんか？

現地の様子を知ることできますよ！

石巻現地事務所に常駐のソーシャルワーカー募集！！

ボランティアのソーシャルワーカーはこれまで通り、平日4名、週末4名を募集し派遣を継続
します。そのコーディネーター的役割を含む、現地活動の中心となる方です。

「平日滞在し、週末は自宅に戻る」など体制については相談可能です。

あなたの能力を、一時期でいいので災害ソーシャルワークに投入し、東北の復興に貢献してい
ただけませんか？！

また、お近くに適任の方がいたら、ご推薦いただければ幸いです。

協会員全員で、東北の復興を支援しましょう。

<連絡先>

災害対策本部 月～金：10:00から17:00 土：10:00～12:00

TEL：03-3351-5038 FAX：03-5366-1058 Mail：dsstsw@jaswhs.or.jp

現地活動情報

12月5日

- ・フォロー訪問面接・電話 5件
- ・河南支所保健師・石巻市立病院看護師との話し合い
- ・黄金袋団地ポスティング

12月6日

- ・石巻市医師会・新妻事務局長と六斎の会の車受け渡しに関して打ち合わせ
- ・石巻市医師会附属訪問看護ステーションより穂波の郷クリニックへの車受け渡し立ち合い
- ・訪問相談

12月7日

- ・継続面接2件
- ・医師会訪問看護ステーションへ災害支援用車両を受け取り
- ・渡波北部第五団地ポスティング
- ・健康・生活アセスメント後フォロー電話

12月8日

- ・仮設住宅運営管理室・粟野様と面会
- ・医師会附属訪問看護ステーションへ救援物資を届ける
- ・河南支所仮設住宅支援会議
- ・健康生活アセスメント後フォロー電話
- ・石巻医療圏 健康・生活復興協議会ケースカンファレンス

12月9日

- ・障害福祉課長と面会
- ・祐ホームクリニック石巻にて打ち合わせ
- ・河南地区仮設住宅住民宅へ、石巻市立病院看護師と訪問

12月10日～11日

- ・茶話会/相談会

祐ホームクリニックのホームページに当会との連携が掲載されています。

→ <http://youhc.blog.fc2.com/>

ボランティア報告会

日時：2012年1月20日(金) 19:00～20:30

場所：日本医療社会福祉協会 会議室

申込み：災害対策本部までメール又は電話でお申し込み下さい。

現地支援活動報告①

武山ゆかり（東京都MSW協会）

期間：11月29日～11月30日

8時に家を出て12:37に石巻駅に着いた。迎えてくれた現地担当者の佐藤さん、高橋さんとまず新事務所に。事前に送られた丁寧な写真入り案内図を作って下さったボランティアに感謝！なかなか複雑な場所。津波の被害を受けたという室内も、内装も新しい「新居」に。荷物を置いて、またすぐ市役所に。仮設住宅管理室にて、茶話会会場となる談話室等の使用申請。すっかり課長や職員等にもお馴染みの関係、気持ちよく受け付けて下さるが、その職員も関西S市の腕章を巻いていた。市民協働推進課では、先日茶話会を開催した際に住民と一緒に、地域の行政委員さんから「自治会」づくりの希望が出た件を話され職員と協議。次回、市から組織運営の説明の機会を持つことにし、市がお知らせを作成して行政委員さんが配布と手順や分担を決定。もちろん当会からも参加、受診、生活相談等担当することに。

次に向かったのは市内から30分程の石巻赤十字病院。MSW伊藤さんは3月末にまだ緊迫した中でお会いした時と違い、柔らかい表情で「石巻地域連携ネットワーク会議」の取組んでいる連携のツールづくりワーキンググループについて語られ、日本協会石巻スタッフもその協力の一つとして資料を届けに立ち寄った。こうしたMSWの活動を大切にしてくれている医療社会事業課長 地域医療連携室長、他のMSWスタッフも震災直後の「戦場」をくぐりぬけきた。今はその経験をこれからの医療と連携に活かすための活動を、早くも始めていることに頭が下がる。この石巻地区のMSW連携の経験は全国の医療に役立つものになるだろう。

事務所に取って返して、茶話会のチラシづくり。これは東京の本部事務所スタッフが下稿を作成。合間に次回茶話会の打合せ電話や事務所の移転や管理に伴う手続きと様々な調整や用事に追われる。フォローのケースへの電話も重要な仕事で手分けをして行う。今後、在宅ケースが新しいプロジェクトで増加する予定だ。こまごました内容の日報を作成し本部に送ると…外はもうグッと冷え込む夜。夕食、朝食の買い物へ。新しい宿舎はお風呂も広く、多機能付きトイレも快適。暖かい寝室で気持ちよく眠りについた。

2日目の早朝、山形より渡部さん着任。和洋それぞれの朝食後、9時には出発。石巻駅で仙台からバスで到着の笹岡氏を迎え市役所に。仮設住宅内に新たに計画されているグループホーム的仮設住宅での支援について障害福祉課長と協議、その後、介護保険課にも挨拶と何カ所かまわる。いずれの部署も、日本協会の名前と顔は職員にもすっかり定着していることが見て取れる。4月から多くのMSWが様々な連絡調整、対応で関わってきた実績が見える。一方、佐藤・高橋・渡部チームは開北地区にある祐ホームクリニック石巻 復興支援室のスタッフと会議。後半、私も市役所前からタクシーにて駆けつけ合流。「石巻医療圏健康・生活アセスメント調査」ケース検討に途中から参加した。被災の状況、家族、健康、経済状況、生活上の問題点など、対面アンケートによる第一次調査のシートを元に、調査と支援を続ける担当者を看護師、保健師、MSWに割り振る作業を。検討数も多く、昼を返上して続けた。時間ぎりぎりまでに何とか作業を終了し、走って車へ。車中で、非常食をかじりながら懐かしい遊楽館への道を飛ばし河南支所へ。ここでは河南地区を担当する障害福祉課職員、保健師、地域包括支援センター、石巻市立病院看護師、見守り隊（社協）、MSW（日本協会）が、各2~3人ずつ参加、援助の必要な方や心配なケースをピックアップ、各仮設を順にフォローの状況を報告。これも引続きの支援の担当者や、介入の必要な部門を確認していく。DVや介護など家族問題や飲酒、認知力の低下、健康不安など、生活の組み立てや介入が必要な方が次々報告される。遊楽館にいた懐かしい名前もチラホラ。この会議も、熱い討議で5時を回り、終了後もケースの引き継ぎや連携の打合せで、6時近くまで。雪の予報だったが、何とか降り出さず市内に帰れそう。行きも帰りも、息せきぎつての往復。何とか6時半の仙台行きバスに飛び乗ることが出来た。現地担当者は、これから一日のまとめと報告、明日の業務の準備と多くの業務が残っている。加えて、翌日東京本部で行われる災害支援についての会議の報告、提案づくりで深夜までパソコンの打ち込みだろうと思うと頭が下がる。

仙台駅で笹蒲と牛タン弁当、ずんだ餅を買い急ぎ新幹線に走り込み、10:32東京駅に帰り着いた。中身の濃い2日間だった。

現地支援活動報告②

草水 美代子（西片医療福祉研究会）

期間：12月3日～12月6日

今回は、茶話会、コミュニティ形成の支援、在宅避難者への訪問相談、関係機関とのネットワーキングを行いました。最終日には山梨六斎の会から新たに車を借用する手続きをするために、石巻市医師会を訪れました。アパートに到着後、バタバタする中、佐藤さんに見送られ、現地でお借りしていたイストをガリバー仙台に返却するために、仙台市泉区まで運転しました。実は、ナビがない状況の運転はとても厳しく、新幹線の時間の5分前に仙台駅に到着するという「きわどい行動」をいたしました。ガリバーの従業員の方は、タクシーを呼んでくださり、とても親切な方でした。ガリバーの役員さんは福島の方が多くそうで、この災害に何かしたかったという背景があるそうです。今回、1000台の車を災害支援に提供していただけるとのことでした。このような心と行動が災害支援を支えているのだと心が温かくなりました。また、今後、活動支援車として新たに無償貸与してくださる山梨六斎の会は、山梨県南巨摩郡富士川町の住民で組織する団体です（代表青木茂氏）。災害の種類は異なるものの、山梨県も土砂崩れなどの自然災害と向き合っていない地域です。現地に行かなくても何かできることはないかと模索しておられました。6月以降、日本協会が仲介し、石巻市医師会訪問看護ステーションに車を4台無償貸与していただいております。この度、役割を終えましたが、引き続き災害支援のために役立ててほしいということで、今後、日本協会の活動の支援車両として無償貸与していただくことになりました。

さて、地域を基盤としたソーシャルワークに求められる機能は、①広汎なニーズへの対応②本人の解決能力の向上③連携と協働④個と地域の一体的支援⑤予防的支援⑥支援困難事例への対応⑦権利擁護活動⑧ソーシャルアクションであるという説があります。10月以降、1つの仮設住宅団地のコミュニティ形成への支援を続けています。コミュニティワークのプロセスモデルを支援の枠組みとして活用し実施しています。現在は、活動主体の組織化→問題把握→計画策定→計画実施→評価→活動主体の再組織化またはリアセスメントのプロセスの中の、第一段階の活動主体の組織化の段階です。後方支援として活動しながら、災害支援の一環として、仮設住宅でのコミュニティワークの効果と限界をも吟味していきたいと思います。そのために、当面、常駐者のご理解を得、協力しながら、月2回のペースで行っていこうと思います。これから、寒さも厳しくなります。越冬のためには沢山のぬくもりが必要です。皆様と一緒に取り組めたら嬉しく思います。

佐藤さん、大変お世話になり、ありがとうございました。

*コミュニティワークのプロセスモデルの出典

永田幹夫「地域組織化過程」『改訂2版地域福祉論』全国社会福祉協議会 2000

医療福祉相談会の報告

現地担当者 佐藤 杏

12月10日11日に10回目の仮設住宅における茶話会／相談会を実施しました。

1日目は5名、2日目は1名の方の参加があり、計6名の参加でした。

茶話会の話題は「震災時のこと」「被災からこれまでの生活のこと（避難所での生活など）」「被災前の生活」でした。

1日目の団地では、鍵の管理人さんの紹介で、外で遊んでいた子供たちを談話室に招き入り一緒に遊びました。現在家を建てていて「できるのが楽しみ」とは話しますが、震災のことは全く話しません。家族が全員無事で、4姉妹仲良くいられることが彼女たちの日常であるのであれば、それを大切に応援したいと感じました。

2日目の団地は、今回で2回目でしたが、前回同様1名のみでの参加でした。今回は前回とは別の方ですが、お茶飲みにいらしてくださいました。震災時のことを明るく「楽しかった」と話され、新しい生活へ向けて一つの区切りができておられるのかなと感じました。その方も、ご近所付き合いはほとんどなく、若い世代は働きに出ていると仰っていました。前回土曜日開催で、今回は休日にといい日曜日に設定しましたが、ニーズそのものがないのかもしれません。

ハンドクリームと茨城県協会より頂いた支援物資の中からタオルや洋服の配布は好評です。ありがとうございました。



配布したチラシ&ポスター



団地の様子



茶話会の様子

現地感想文

12月6日(火)

石巻の寒さは、日中でも外にいと身体の芯から冷える感じがします。沿岸部への訪問相談は、訪問宅の無事さ(リフォーム済みだったり)と対照的に周囲が更地だったり、被災した家がそのまま取り残されていたりで、住み慣れた家で生活し続けることもまた、大変なことだと思います。

12月7日(水)

今日は久々に天気も良く、暖かく感じる日でした。日中、歩いて訪問看護ステーションまで行きましたが、寒さを感じませんでした。朝一で、大家さんが、襖の立てつけの修繕に来てくださいました。駐車場の場所を何回か変更されているのですが、この近辺で3台分確保させてもらっていることはとてもありがたいです。その分住民の方の場所がなくなってしまうのではないかと懸念していますが、今のところは大丈夫と大家さんがおっしゃって下さいました。

12月9日(金)

石巻は、日中は車内にいると少し日差しが暑いなと感じるくらい、ぽかぽか陽気でしたが、夕方から急に冷え込み、一瞬にして肌が冷たくなるのを感じました。これからボランティアにおいでにな

る方は、健康管理に留意して頂きたいです。備えあれば憂いなし…とも言いますので、風邪薬等はいつも飲んでいるものがあれば、お持ちいただいた方が良いです。現地でも買えますが、持っているだけでも安心かと思います。

12月10日(土)

本日の茶話会は子供たちが来てくれました。賑やかでしたが、SWとしてのアプローチとはかけ離れていたと思います。やはり、最低でもSW2名体制で臨むことで、支援の点検にもなると思いました。加えて、音響効果があると良いと思いました。子どもには子ども向け、大人には…クラシックでもカフェミュージックでも、大河ドラマや連続テレビ小説のサントラ盤でも良いかもしれません。これから少しクリスマスっぽくても良いと思います。音楽の持つ力はやはり大きいです。落ち着けるような、元気が出るような…テーマは団地ごとに違うでしょうが、きっと住民の心にそっと寄り添えるのではないかと感じました。

12月11日(日)

本日は、渡波北部第五団地で二回目の茶話会開催でしたが、前回同様1名のご参加でした。お話から、相談ニーズは存在していないような印象を受けます。この事実をどう評価するかが課題だと思います。

事務所感想文

12月5日(月)

中山(初台リハビリテーション病院)

今日はとても静かな半日でしたので、現地からの資料や活動報告などにゆっくり目を通すことができ、改めて現地での支援の意義、継続することの大切さを実感しました。皆様本当にお疲れさまです。

12月7日(水)

東(初台リハビリテーション病院)

今日は外部からの電話もなく、落ち着いて書類作成などを行いました。手を広げすぎたのか、結局一原さんに申し送ることが多くなり、反省。気付いたことを少しずつ改善しながら事務所も進んでいきたいです。

12月8日(木)

取出(初台リハビリテーション病院)

一原さんと、明日の理事会への報告書づくりを行いました。何とか多くの会員に情報を届ける工夫を考えていきます。今は現地の記録システムを小淵さん、飯島さんが構築して下さいます。有難うございます。

12月10日(土)

市川(初台リハビリテーション病院)

メールの調子が悪く、フリーズ!!がありました。落ち着いた1日でした。改めて資料を見直し、支援が継続している事を実感しました。